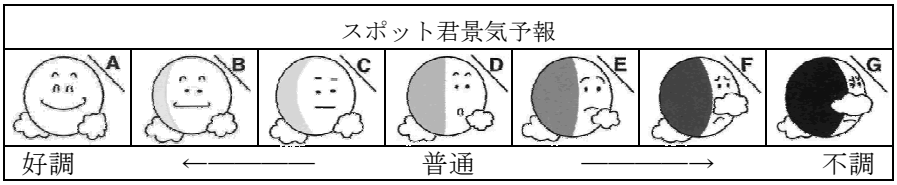
２．目黒区内中小企業の景況（平成 25 年 10～12 月期）

（１）今期の特徴点



製　造　業

製造業の主要指標をみると、業況は△16.4 で前期比 1.0 ポイント減と前期並で推移した。売上額は△13.4 で 2.8 ポイント減とわずかに悪化し、受注残は△11.5 で 1.0 ポイント減、収益は△14.5 で 0.7 ポイント減と、いずれも前期並となった。来期の見通しについては、売上額はかなり改善し、受注残はわずかに改善、収益はやや改善しており、業況もやや改善する見込み。

価格動向については、販売価格は△6.9 で 1.9 ポイント増と前期並となり、原材料価格は 18.8 で 6.3 ポイント増とかなり上昇傾向が強まった。在庫は 2.1 で 4.5 ポイント増加した。来期の見通しについては、販売価格はやや厳しさが和らぐが、原材料価格はわずかに上昇傾向が強まり、在庫は今期並の水準が続く見込み。

資金繰りは△17.3 で 3.0 ポイント減とわずかに窮屈感が強まった。借入難易度は△9.3 で 6.3 ポイント増と大きく改善し、借入をした企業は 18.8%で 3.8 ポイント増加した。設備投資動向については、設備投資を実施した企業は 7.0%で 4.0 ポイント増加した。来期の見通しについては、資金繰りは△19.1 と今期並となり、借入をする企業は 16.2 で 2.6 ポイント減少し、設備投資を実施する企業は 9.0 で 2.0 ポイント増加する見込み。

経営上の問題点は、１位は「売上の停滞・減少」で 59.8%となった。次いで２位は「同業者間の競争の激化」で 47.1%、３位は「利幅の縮小」で 24.5%となった。

重点経営施策では、１位は「販路を広げる」で 63.7%となった。２位は「経費を節減する」で 55.9%、３位は「情報力を強化する」で 17.6%となった。

卸　売　業

卸売業の主要指標をみると、業況は△2.7 で 7.0 ポイント増と大きく改善した。売上額は 3.4 で 7.0 ポイント増とかなり改善し、収益は△6.6 で 7.2 ポイント減と水面下に落ち込んだ。来期の見通しについては、売上額、収益ともに大幅に改善し、業況は今期並となる見込み。

価格動向については、販売価格は△9.5 で 4.1 ポイント減と下降傾向が強まり、仕入価格は 8.6 で 1.8 ポイント増とほぼ横ばいとなった。在庫は 3.2 で 1.9 ポイント増加した。来期の見通しについては、販売価格は今期並で推移し、仕入価格はかなり上昇傾向を強め、在庫はやや減少する見込み。

資金繰りは△10.1 で 11.5 ポイント減と大幅に悪化し厳しい状況に転じた。借入難易度は 12.0 で 7.6 ポイント増と容易となり、借入をした企業は 25.9%で 4.5 ポイント増加した。設備投資動向については、設備投資を実施した企業は 3.6%で 3.5 ポイント減少した。来期の見通しについては、資金繰りは△14.9 とやや悪化し、借入をする企業は 11.1%と大幅に減少する見込み。設備投資をする企業については 10.7%とかなり増加する見込み。

経営上の問題点は、１位は「同業者間の競争の激化」で 57.1%となった。次いで２位は「売上の停滞・減少」で 46.4%、３位は「利幅の縮小」で 25.0%となった。

重点経営施策では、１位は「経費を節減する」で 57.1%となった。次いで２位は「販路を広げる」で 53.6%、３位は「情報力を強化する」で 35.7%となった。

小　売　業

<<今期>>

小売業の主要指標をみると、今期の業況は△20.8 で 4.6 ポイント増とやや改善した。売上額は△13.1 で 0.2 ポイント増とほぼ横ばいで推移し、収益は△11.3 で 6.6 ポイント増と持ち直した。来期の見通しについては、売上額、収益ともにやや改善し、業況は今期並で推移する見込み。

価格動向については、販売価格は△1.1 で 5.1 ポイント増とやや厳しさが和らいだ。仕入価格は 5.9 で 0.2 ポイント増とほぼ横ばいで推移した。在庫は 1.5 で 3.0 ポイント減とわずかに過剰感が緩和した。来期の見通しについては、販売価格は△1.4 と今期並の水準となり、仕入価格は 10.8 と上昇傾向を強め、在庫は 1.5 で今期と変化なく推移する見込み。

資金繰りは△17.4 で 4.9 ポイント増と窮屈感がやや緩和した。借入難易度は 2.2 で前期の 0.0 からやや厳しさが和らぎ、借入をした企業は 13.8%で 8.3 ポイント増加した。設備動向については、設備投資をした企業は 5.3%でほぼ横ばいとなった。来期の見通しについては、資金繰りは△20.5 とやや悪化し、借入をする企業は 8.8%とやや減少し、設備投資をする企業は 7.3%とわずかに増加する見込み。

経営上の問題点については、１位は「売上の停滞・減少」で 52.5%となった。次いで２位は「同業者間の競争の激化」で 35.6%、３位は「大型店との競争の激化」で 27.1%となった。

重点経営施策では、1 位は「経費を節減する」で 45.8%となった。2 位は「品揃えを改善する」で 37.3%、3 位は「宣伝・広告を強化する」で 27.1%となった。

サービス業

<<今期>>

サービス業の主要指標をみると、今期の業況は△8.5 で 11.2 ポイント増と大幅に改善した。売上額は△2.6 で 15.1 ポイント増、収益は△5.5 で 11.2 ポイント増と、ともに大きく持ち直した。来期の見通しについては、売上額、収益ともに水面下を脱し、業況は水面下ながらもやや改善する見込み。

価格動向については、料金価格は△4.4 で 5.1 ポイント増とやや厳しさが和らぎ、材料価格は 14.6 で 5.5 ポイント増と上昇に転じた。来期の見通しについては、料金価格は△1.9 で下降傾向が改善し、材料価格は 17.1 で上昇幅が拡大する見込み。

資金繰りは、△12.5 で 1.2 ポイント減と前期並の厳しさが続いた。借入難易度は△2.1 で 3.9 ポイント増とやや窮屈感が和らいだ。借入をした企業は 15.0%で 1.4 ポイント減少した。設備投資動向については、設備投資をした企業は 10.3%でほぼ横ばいとなった。来期の見通しについては、資金繰りはやや改善され、借入をする企業はわずかに減少し、設備投資をする企業は今期並で推移する見込み。

経営上の問題点は、1 位は「売上の停滞・減少」で 51.7%、2 位は「同業者間の競争の激化」で 46.7%、3 位は「利幅の縮小」で 15.0%となった。

重点経営施策では、1 位は「経費を節減する」で 58.3%、2 位は「販路を広げる」で 45.0%、3 位は「宣伝・広告を強化する」で 26.7%となった。

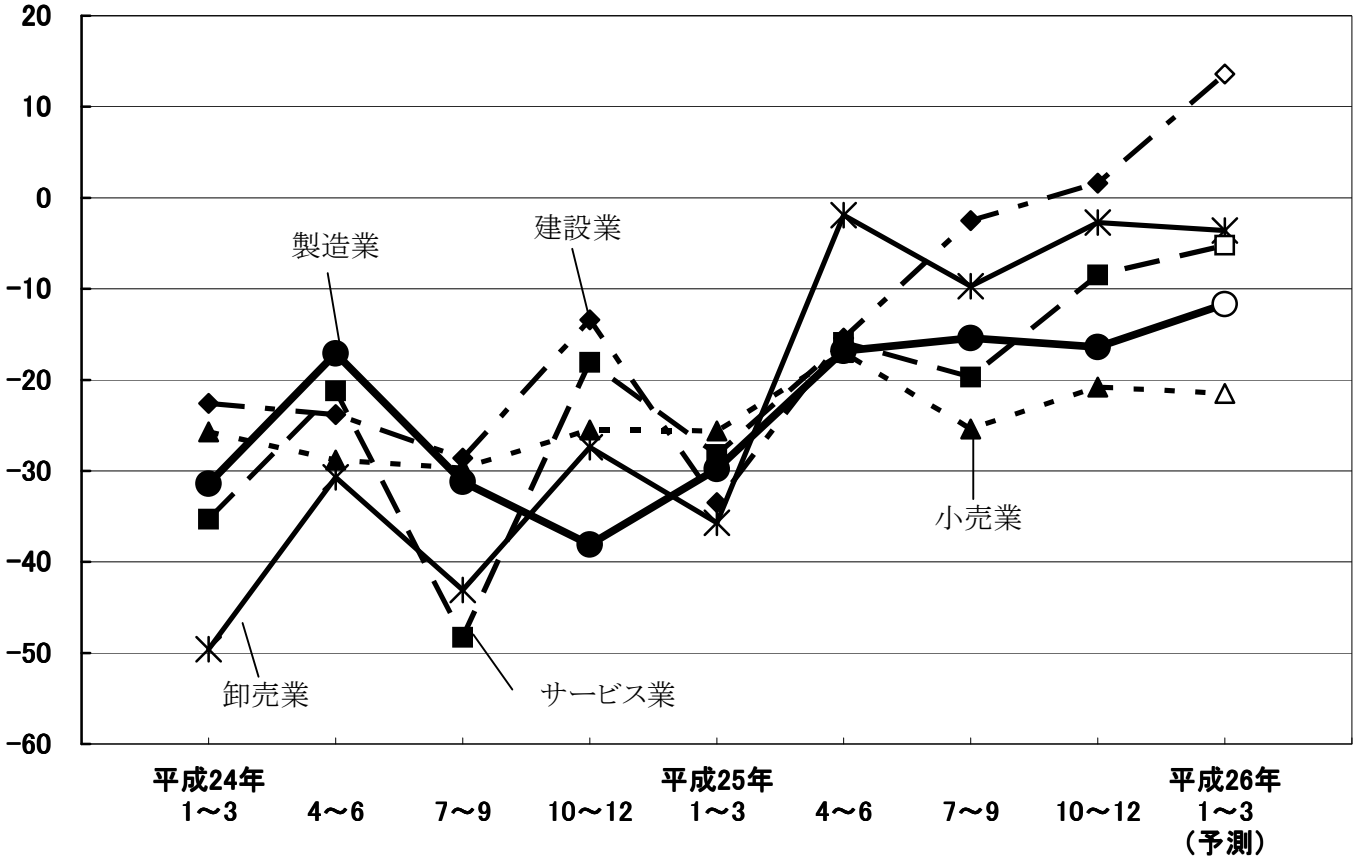
建　設　業

建設業の主要指標をみると、業況は 1.6 で 4.1 ポイント増とやや改善した。売上額は 10.1 で 11.1 ポイント増と大きく持ち直し、収益は 0.6 で 3.6 ポイント増とわずかに改善した。施工高は 7.6 で 9.6 ポイント増、受注残は 16.8 で 17.0 ポイント増といずれも大幅に改善した。来期の見通しについては、受注残はやや改善、売上額、施工高、収益のいずれも大きく改善し、業況も大幅に改善する見込み。

価格動向については、請負価格は△10.9 で 13.0 ポイント減とかなり下降し、材料価格は 27.2 で 7.5 ポイント増と上昇幅が拡大した。在庫については 0.4 で 0.5 ポイント減とほぼ横ばいとなった。来期の見通しについては、請負価格、材料価格のいずれも今期並で推移する見込み。

資金繰りは、△10.7 で 0.8 ポイント減と前期並の厳しさが続いた。借入難易度は 0.0 で 15.0 ポイント増と大きく改善し、借入をした企業は 28.9%で 2.2 ポイント増加した。設備投資動向については、設備投資を実施した企業は 8.7%で 1.9 ポイント増加した。来期の見通しについては、資金繰りは△12.5 とほぼ今期並で推移し、借入をする企業は 20.5% とかなり減少すると見られる。設備投資を実施する企業は 10.9%とわずかに増加する見込み。

経営上の問題点は、１位は「同業者間の競争の激化」で 50.0%となった。次いで２位は「売上の停滞・減少」で 41.3%、３位は「利幅の縮小」で 21.7%となり、順位に変動はなかった。次いで４位は「人手不足」と「大手企業との競争激化」、「材料価格の上昇」が 17.4%で並んだ。

重点経営施策は、１位は「経費を節減する」で 65.2%、２位は「販路を広げる」で 63.0%、３位は「情報力を強化する」と「技術力を高める」が 23.9%で並んだ。次いで４位は前期５位の「人材を確保する」で 21.7%となった。

各業種別業況の動き（実績）と来期の予測